

The EBARA

報告書 | 2019年1月1日 — 2019年12月31日

巻頭
特集

長期ビジョン「E-Vision2030」
中期経営計画「E-Plan2022」の策定

Looking ahead, going beyond expectations
Ahead > Beyond

目次

- 01 イントロダクション
- 03 巻頭特集
長期ビジョン「E-Vision2030」
中期経営計画「E-Plan2022」の策定
- 05 トップメッセージ
- 07 セグメント情報
- 09 海外展開
- 10 トピックス
- 11 ステークホルダーとの関わり
- 13 財務情報
- 14 企業情報



- 11 ステークホルダーとの関わり
- 13 財務情報
- 14 企業情報

詳しい業績情報は
当社WEBサイトへ



<https://www.ebara.co.jp/about/ir/index.html>

創業の精神「熱と誠」



与えられた仕事をただこなすのではなく、自ら創意工夫する熱意で取り組み、誠心誠意これをやり遂げる心をもって仕事をする。そして、何事も熱意と誠心をもって人に接すれば、相手に通じないことはない。

企業理念

水と空気と環境の分野で、優れた技術と最良のサービスを提供することにより、広く社会に貢献する。

ブランドステートメント

Looking ahead,
going beyond expectations

Ahead Beyond

業界を牽引するリーディングカンパニーとして、期待や想像を超える製品やソリューションをご提供していきます。また、「Ahead,Beyond」には、決して現状に満足することなく、常に更なる高みを目指し挑戦し続ける当社の企業精神も込められています。

IRメール配信サービスのご案内

当社では、最新のIR情報を電子メールでお知らせするIRメール配信サービスを行っています。是非ご登録ください。



https://www.ebara.co.jp/about/ir/ir_mail/index.html

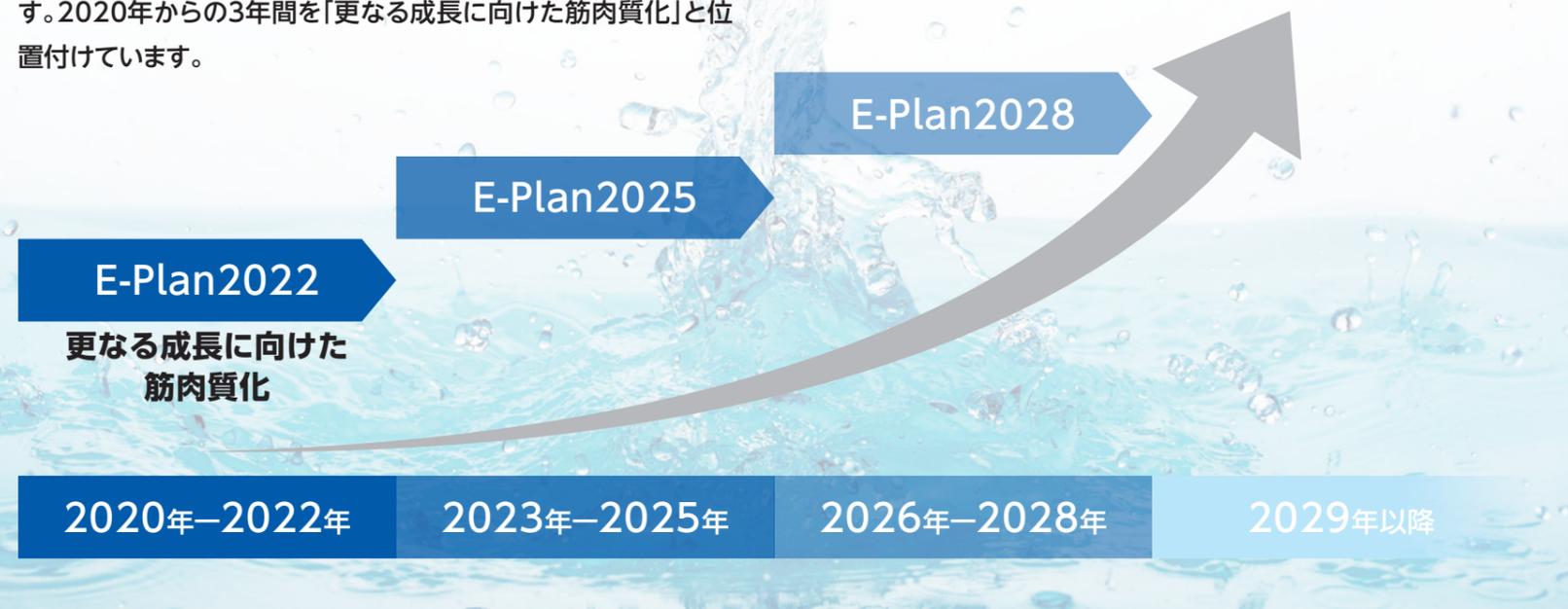
中期経営計画「E-Plan2022」

更なる成長に向けた筋肉質化

中期経営計画「E-Plan2022」は、長期ビジョン「E-Vision2030」で示した荏原グループの進むべき方向性に対して、バックキャストして今後3年間で取り組むべき経営の方針や戦略を表すものです。2020年からの3年間で「更なる成長に向けた筋肉質化」と位置付けています。

E-Vision2030

技術で、熱く、世界を支える



E-Plan2022 基本方針

1 事業成長への挑戦

新事業の開拓・創出や既存事業におけるグローバル市場への更なる展開

2 既存事業の収益性改善

収益基盤強化のための事業構造の変革と全事業でのサービス&サポート売上高の伸長

3 経営・事業インフラの高度化

デジタルトランスフォーメーション(DX)への積極的な取り組み等による経営のスピードアップ、ROIC経営の深化

4 ESG経営の進化

変化する環境問題への取り組み、社会とのつながり及びガバナンスの強化

E-Plan2022 達成すべき目標

最重要経営指標(KPI)

ROIC(投下資本利益率) **8.0%以上**

売上高営業利益率 **8.5%以上**

目標を達成するためのモニタリング指標

ROE(自己資本利益率) **11.0%以上**

D/Eレシオ **0.3~0.5倍**

事業別営業利益率

風水力事業 **7.0%以上**

ポンプ事業 **6.5%以上**

コンプレッサ・タービン事業 **8.0%以上**

冷熱事業 **5.0%以上**

環境プラント事業 **9.5%以上**

精密・電子事業 **13.0%以上**

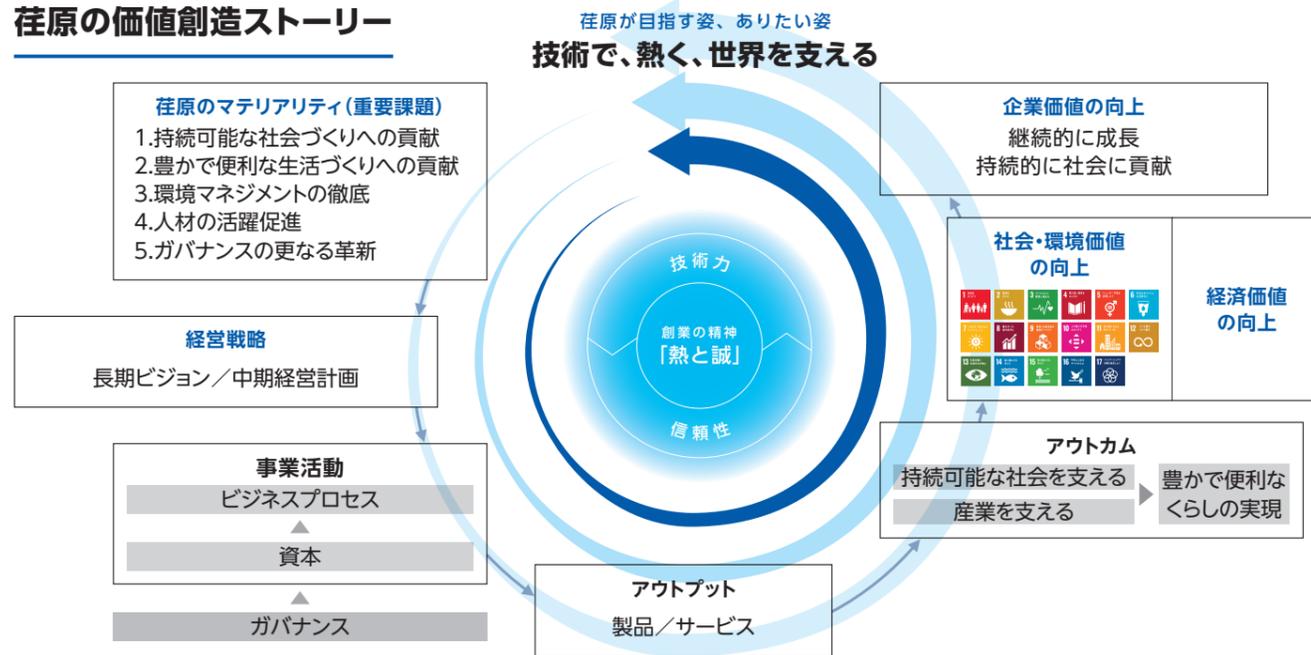
長期ビジョン「E-Vision2030」 中期経営計画「E-Plan2022」の策定

当社はこの度、10年後の2030年度に向けた長期ビジョン「E-Vision2030」及び

2020年度からの3か年における中期経営計画「E-Plan2022」を策定しました。

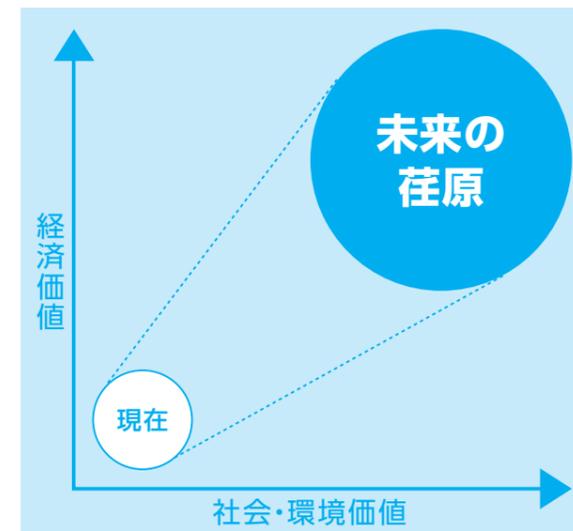
E-Vision2030

荏原の価値創造ストーリー



E-Vision2030 10年後のありたい姿

社会・環境価値と経済価値の両方を向上させることで、荏原の企業価値を高める。



社会・環境価値

事業を通じた社会課題の解決

- CO₂約1億トン相当の温室効果ガスを削減
- 世界で6億人に水を届ける
- ICAC5 (IoT、クラウド、AI、車の自動運転、5G) への寄与…14オングストロームへの挑戦

経済価値

- ROIC10.0%以上
- 売上高1兆円規模

企業価値向上の目安

- 時価総額1兆円

E-Plan2022

基本方針

1 事業成長への挑戦

新事業の開拓・創出や既存事業におけるグローバル市場への更なる展開

2 既存事業の収益性改善

収益基盤強化のための事業構造の変革と全事業でのサービス&サポート売上高の伸長

3 経営・事業インフラの高度化

デジタルトランスフォーメーション(DX)への積極的な取り組み等による経営のスピードアップ、ROIC経営の深化

4 ESG経営の進化

変化する環境問題への取り組み、社会とのつながり及びガバナンスの強化

経営戦略

事業戦略

- 新規事業**
マーケットインの視点でグローバルに社会のニーズを新たにとらえ、当社の技術力に加え、外部リソースも活かした顧客へのソリューション提供を目指す
- 既存事業**
全社的には各事業間の連携を通じたシナジー最大化等によるサービス&サポート事業の強化を図るとともに、事業ポートフォリオに基づくメリハリのある事業別戦略を実施する
- 市場戦略**
中国・インド及びアフリカを中心としたグローバル、国内の各市場別施策を実行し、収益を最大化する
- 経営資本の強化**
事業成長に必要な6つの資本(人・製造・財務・知財・社会関係・自然/環境)を事業環境の変化やグローバルでの事業拡大に資するものに進化・強化する
- 高度なESG経営の実践**
事業の継続的な成長のため、変化する環境問題への取り組み、社会とのつながり及びガバナンスを強化する

数値目標

最重要経営指標(KPI)

ROIC(投下資本利益率) **8.0%以上**

売上高営業利益率 **8.5%以上**

目標を達成するためのモニタリング指標

ROE(自己資本利益率) **11.0%以上**

D/Eレシオ **0.3~0.5倍**

事業別営業利益率

風水力事業	7.0%以上
ポンプ事業	6.5%以上
コンプレッサ・タービン事業	8.0%以上
冷熱事業	5.0%以上
環境プラント事業	9.5%以上
精密・電子事業	13.0%以上

財務戦略

成長投資

設備投資	1,000億円程度
研究開発費	400億円程度
積極的なM&A	

株主還元

連結配当性向	35%以上
※自己資本を基準とした連結自己資本配当率(DOE)2.0%以上を下限とする	
機動的な自己株式取得	

資本の効率化

D/Eレシオ	0.3~0.5倍程度
売上債権・棚卸資産の圧縮	

Message from Management

トップメッセージ

創業の精神「熱と誠」や
培われた技術力、
信頼性を強みとして、
事業を通じて更に広く
社会に貢献し続けていきます。

代表執行役社長 浅見 正男



第155期の業績について

当連結会計年度における事業環境は、世界経済では石油・ガス市場において一定の投資水準が継続する一方、半導体市場においては投資の調整局面にありましたが、一部で設備投資再開の動きも見られました。日本経済では、公共投資が堅調に推移しており、民間設備投資では例年並みの状況が続いています。全体として市況は底堅く推移しました。

この結果、当連結会計年度の受注高は、風水力事業が増加したものの、環境プラント事業と精密・電子事業の減少により前期並みとなりました。売上高は、精密・電子事業が減少したものの、風水力事業と環境プラント事業の増加により前期並みとなりました。営業利益は、精密・電子事業が減少したものの、風水力事業と環境プラント事業の増加により前期を上回りました。

当連結会計年度における売上高は5,224億24百万円

(前期比2.6%増)、営業利益は352億98百万円(前期比8.7%増)、経常利益は355億71百万円(前期比13.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は233億49百万円(前期比27.9%増)となりました。

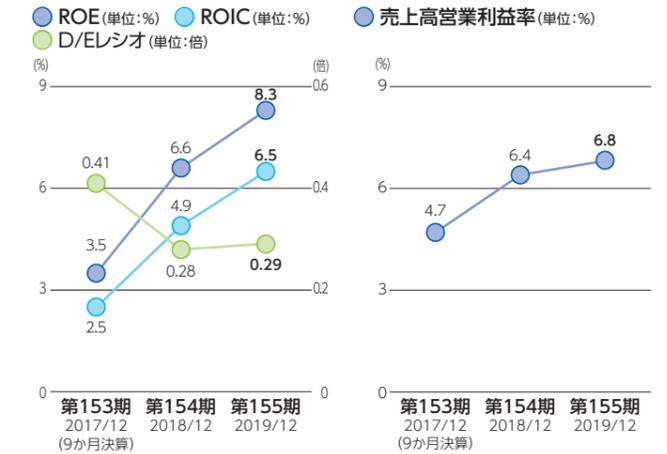
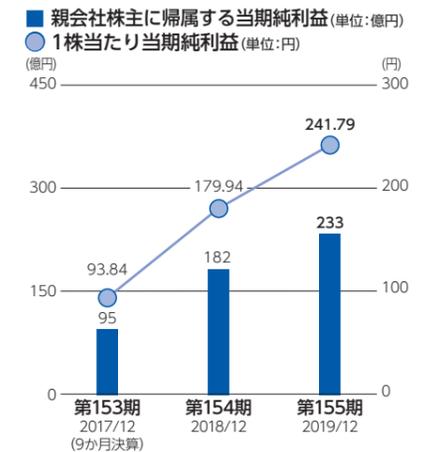
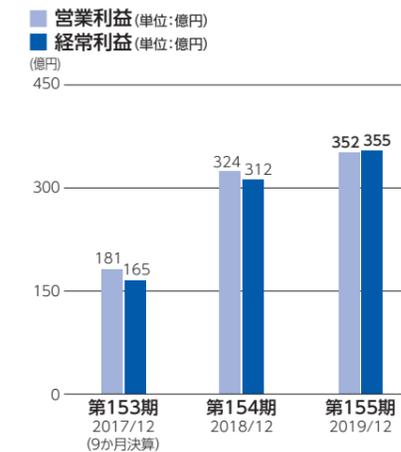
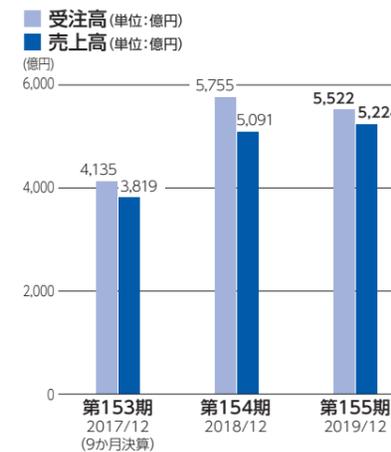
長期ビジョン「E-Vision2030」及び 中期経営計画「E-Plan2022」策定について

当社グループは、創業以来約100年にわたり、創業の精神である「熱と誠」をもって、技術力と信頼性を強みに社会課題の解決に貢献してきました。これからの100年も更なる成長を続けていくためには、将来のありたい姿を描き、その実現に向けた方針・戦略を明確にすることが不可欠と考え、10年後の2030年に向けて目指すべき方向性を示した長期ビジョン「E-Vision2030」を策定しました。

また、長期ビジョン「E-Vision2030」からのバツ

連結業績ハイライト

受注高	5,522億円	前期比	4.1%	↓
売上高	5,224億円	前期比	2.6%	↑
営業利益	352億円	前期比	8.7%	↑
経常利益	355億円	前期比	13.7%	↑
親会社株主に帰属する当期純利益	233億円	前期比	27.9%	↑
1株当たり当期純利益	241.79円	前期比	34.4%	↑
1株当たり年間配当金	60円	前期比	0円	→
内訳 中間配当金：30円 期末配当金：30円				



クキャストと、前中期経営計画の振り返りから明確になった解決すべき課題への対応等に基づき、10年計画の最初の3年間で取り組むべき経営の方針や戦略を示した中期経営計画「E-Plan2022」を策定しました。「E-Plan2022」は、「更なる成長に向けた筋肉質化」のステージと位置付け、そのために3年間にすべきことを4つの基本方針として決めました。

方針を定めるにあたっては、事業ポートフォリオ最適化のために、「将来にわたり成長が期待できる事業」と「市場が成熟している、又は収益性に課題がある事業」とに明確に区分し、方針や戦略にメリハリをつけています。この基本方針に基づいて経営戦略を設定し、事業ごとの計画を策定・実行していきます。そして、計画最終年度の2022年度に「ROIC 8.0%以上」、「売上高営業利益率 8.5%以上」を目指していきます。

株主還元について

当社は、株主に対する利益還元を最も重要な経営方針の一つとして位置付けており、「E-Plan2019」期間における株主還元については、連結総還元性向30%以上を目標に当該期の業績に連動して実施する方針としていました。

この方針に基づき、第155期の期末配当は、1株当たり30円とさせていただきます。この結果、中間配当金30円と合わせ、第155期の年間配当金は1株当たり60円となりました。また、第155期は150億円の自己株式を取得しており、連結総還元性向は88.8%となりました。

なお、「E-Plan2022」では自己株式の取得に左右されない配当性向を基準とし、連結配当性向35%以上を目標としつつ、連結自己資本配当率 (DOE) 2.0%以上を確保することとしています。

Segment Information

セグメント情報



風水力事業

売上高 **3,231** 億円
前期比 4.6%増

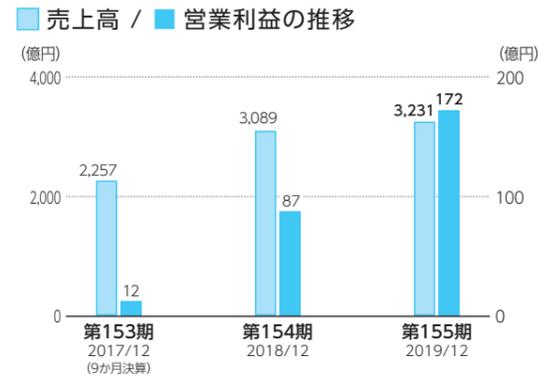
営業利益 **172** 億円
前期比 97.5%増

主要製品

ポンプ、コンプレッサ、タービン、冷凍機、冷却塔、送風機

POINT

- 中国で石油・ガス市場向けのカスタムポンプが好調で増益。(+)
 - 国内標準ポンプ事業の業務効率化により増益。(+)
 - コンプレッサ・タービン事業でサービス&サポートの売上増加により増益。(+)
 - 冷熱事業で新製品の売上増加により増益。(+)



● 新型給水ユニット「フレッシャー3100NEO BN-MG型^{※1}」を発売

ポンプ事業では、ビルやマンションへの安定した給水を担う新型の給水ユニット「フレッシャー3100NEO BN-MG型」を2019年12月に発売しました。本製品は、モータ効率最高クラスIE5相当のPMモータと当社開発インバータを一体化した、インバータ内蔵PMモータを搭載しています。これにより、近年需要の高まっている建物スペースの有効活用や施工時間・メンテナンス時間の短縮を実現する製品となっています。本製品の特長は、「ダウンサイジング」として設置面積約32%の削減^{※2}、「ライトウェイト」として質量約44kg(29%)の削減^{※2}を実現し、業界最小クラスの設置面積となっていることです。さらに、「設置自由度アップ」として、吐出し方向、制御盤の設置方向を現場で選択できる構造としたことで、メンテナンス性に配慮した自由なレイアウトが可能となっています。

今後も、新しい技術を採用した新製品を市場投入することにより、お客様の求める給水設備の最適化に貢献してまいります。

※1 記事中の「○○○型」は、当社の機種記号です ※2 当社従来製品比



フレッシャー3100NEO BN-MG型



環境プラント事業

売上高 **695** 億円
前期比 10.7%増

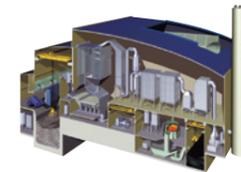
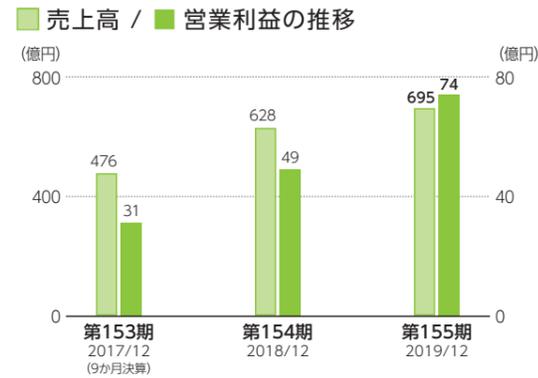
営業利益 **74** 億円
前期比 52.6%増

主要製品

都市ごみ焼却プラント、産業廃棄物焼却プラント、バイオマス発電プラント

POINT

- 施設の運転管理・メンテナンスを行うO&M案件の売上増加により増益。(+)
 - 複数の大型案件を受注したものの、前期の受注高の水準が非常に高く、受注高は前期を下回る。(－)



● 自治体向けごみ処理施設DBO事業を連続で受注

環境プラント事業では、自治体向けごみ処理施設建設・施設運営事業(DBO事業)において、「立川市新清掃工場整備運営事業」、「伊豆市伊豆の国市新ごみ処理施設整備・運営事業」、「三沢市ごみ焼却施設整備運営事業」の3件を連続で受注しました。

当社は、ごみ処理施設の建設・施設運営を通じて持続可能な地域社会の構築に貢献するため、AI、IoTなどの高度な技術を活用した更なる施設の安定化や省資源化に取り組むとともに、地元企業等との協力による地域に根差した施設運営に力を入れており、これら地道な活動が今回の連続受注につながったものと確信しています。

今後も、ごみ処理施設の建設・施設運営の技術やノウハウを活かし、地域活性化や地域経済に貢献するとともに、地球温暖化など社会的な課題の解決に積極的に取り組むことにより、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



立川市新清掃工場 外観イメージ図 (周辺との調和を図るべく設計を協議しています)



精密・電子事業

売上高 **1,282** 億円
前期比 5.5%減

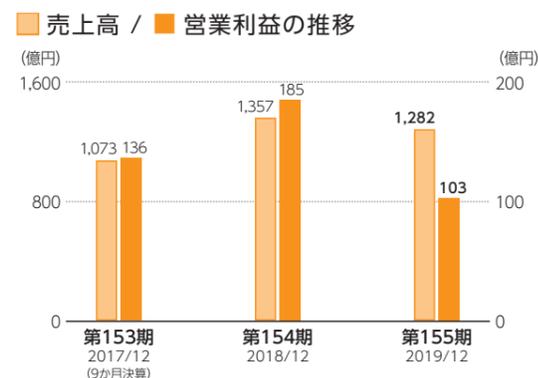
営業利益 **103** 億円
前期比 44.1%減

主要製品

真空ポンプ、CMP装置、めっき装置、排ガス処理装置

POINT

- 半導体市場の設備投資は一部で再開されたものの、メモリ向けを中心に低水準で、CMP事業の売上高が減少。(－)
 - 開発案件が増加し、減益。(－)
 - 人件費が増加し、減益。(－)



● CMP装置の累計出荷台数2,500台突破

精密・電子事業では、2019年9月に主力製品であるCMP装置の累計出荷台数が2,500台を突破しました。1992年に初号機を出荷して以来、より高度な平坦化技術を実現するため開発を重ねてきました。その結果、現在では半導体製造プロセスで欠かすことのできない装置となり、世界中のお客様にお使いいただいております。

半導体需要は、ICAC5(IoT、クラウド、AI、車の自動運転、5G)の広がりを背景に拡大していくことが予想されます。また技術的には微細化、高集積化、多層配線化の進展に伴い、CMP装置は今後も更に重要性を増していきます。

今後も高まる需要に対して技術開発、生産革新活動を進めることで、お客様のニーズに応え続けられるよう注力してまいります。

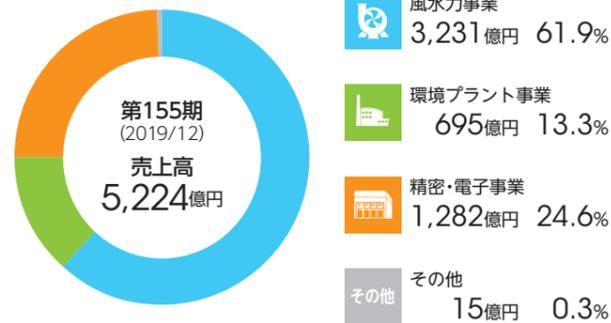


熊本工場クリーンルームにて製造関係者による記念撮影

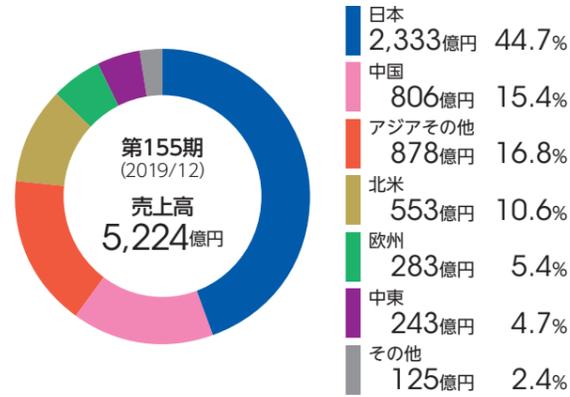
Global View

海外展開 (2019年12月31日現在)

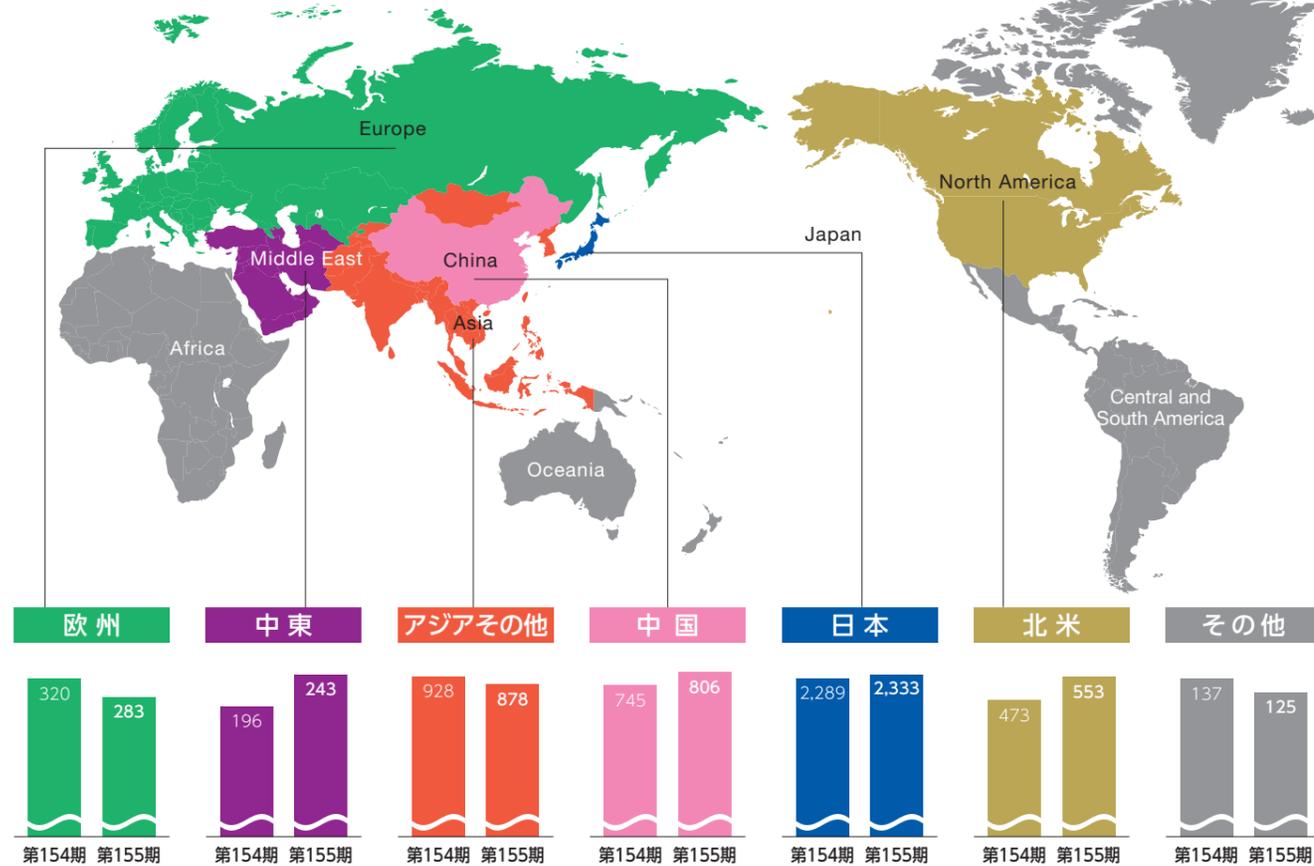
事業別連結売上高



地域別連結売上高



地域別売上高の推移 (単位:億円)



国内・海外の関係会社数

96社

海外			
関係会社	61社		
●中国	12社	●欧州	10社
●アジアその他	19社	●中東	4社
●北米	6社	●その他	10社
国内			
関係会社	35社		

海外売上高 / 海外売上比率

2,890億円 / 55.3%



※第153期は、決算期変更により2017年4月から2017年12月までの9か月間となります。

Topical News

トピックス

荏原グループの動き (2019年7月 → 2019年12月)

- 7 JUL**
 - 廃プラスチックのガス化ケミカルリサイクル推進に向けた協業の検討を開始
 - 藤沢事業所に精密コンポーネント開発・イノベーションセンターが竣工(写真①)
 - 世界水泳メダリスト表敬訪問
 - 「テレワーク・デイズ2019」「スムーズビズ」に参加
 - 「立川市新清掃工場整備運営事業」を受注
- 8 AUG**
 - 帝国電機製作所と石油精製・石油化学業界向けポンプの技術業務提携契約を締結
 - 下水道展'19横浜に出展(写真②)
- 9 SEP**
 - 機関投資家向け コンプレッサ・タービン事業説明会兼工場見学会を実施
 - CMP装置累計出荷台数2,500台達成
 - 機関投資家向け 精密・電子事業の工場見学会を熊本工場を実施
 - VACUUM2019 真空展に出展
 - 第19回管工機材・設備総合展に出展
 - 富津、藤沢、袖ヶ浦の3つの事業所の社員食堂が「健康な食事・食環境認証制度」で認証を取得
- 10 OCT**
 - 広島市 新千田ポンプ場の増設工事を受注
 - ディーラーニングビジネス活用アワードにて優秀賞を授賞
 - 新TV-CMが放映開始
 - 「伊豆市伊豆の国市新ごみ処理施設整備・運営事業」を受注
- 11 NOV**
 - 六本木ヒルズエネルギーセンターにて個人株主様向け現場見学会を実施
 - 新型排ガス処理装置「TND-Single型」「TND-Single Plus型」を発売(写真③)
 - インドネシア大学に教材用のポンプを寄贈(写真④)
 - 第10回 全国青少年チャレンジ創造コンテスト 全国大会に協賛
- 12 DEC**
 - 船橋市北部清掃工場にて個人株主様向け現場見学会を実施
 - 東北農政局 下車力機場(青森)のポンプ設備改修工事を受注
 - 小型走行型ロボットを用いたボイラ水管厚さの自動連続測定に成功(写真⑤)
 - 新型給水ユニット「フレッシャー3100NEO BN-MG型」を発売
 - エコプロ2019に出展
 - SEMICON Japan 2019 に出展
 - TSMC社から8年連続「Excellent Performance Award」を受賞
 - 「三沢市ごみ焼却施設整備運営事業」を受注



◎精密コンポーネント開発・イノベーションセンター V6棟外観



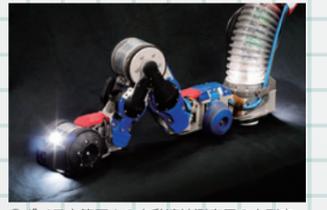
◎下水道展ブース



◎新型排ガス処理装置 TND-Single型



◎贈呈式の様子



◎ボイラ水管厚さの自動連続測定用の小型走行型ロボット外観

IRカレンダー



地域・社会とのコミュニケーション

「次世代を担う子供たちの挑戦」を継続して応援しています

当社は、外部団体が主催するコンテストへの支援やイベントの開催などを通して、次世代を担う理系人材の育成を支援しています。中でも、公益社団法人発明協会／青少年創造性開発事業へは、その設立当初より継続して支援しています。2019年11月で第10回を迎えた「全国少年少女チャレンジ創造コンテスト」には、地方大会参加543チームから勝ち抜いた60チームの児童生徒が参加しました。当社は「荏原製作所賞」を設けて、少年少女のチャレンジ精神と創意工夫を讃えました。

また、更なる取り組みとして、今年度新たに「世界青少年発明工夫展 (IEYI)」に“EBARA Award”を設けました。10月にインドネシアのタンゲラン市で開催された第15回IEYIには、世界11か国(日本、中国、インドネシア、マカオ、マレーシア、フィリピン、ロシア、シンガポール、台湾、タイ、ベトナム)から約140名の青少年が参加し、“EBARA Award”はインドネシア代表の青年に贈られました。

次世代を担う子供たちによる社会をより良くする発明や開発、チャレンジする精神は、当社のDNAに通じるマインドといえます。当社は、今後もポンプをはじめとする製品、サービスを提供するだけでなく、次世代を担う未来の技術者への支援を続けます。

当社の社会貢献活動についてはこちら

https://www.ebara.co.jp/about/csr/social_contributions/community_outreach/index.html



「第10回全国少年少女チャレンジ創造コンテスト」会場



世界青少年発明工夫展「EBARA Award」表彰式



「エコプロ2019持続可能な社会の実現に向けて」に出展しました

当社は2019年12月5日から7日の3日間、東京ビッグサイトで開催の「エコプロ2019」に12年ぶりに出展しました。本展示会は、環境保護・社会課題の解決をテーマとする日本最大級の展示会で、当社ブースには3日間で総勢4,000名を超えるお客様にお越しいただきました。

当社ブースでは、グループのミッションである「技術で、熱く、世界を支える」を出展コンセプトとし、本展示会のメインテーマである「SDGs(国連が定めた17の持続可能な開発目標)」に沿って事業活動をご紹介しました。マンガによるストーリーを軸に、来場者が実際に体験可能なギミックも交え、当社の各事業がどのように世の中を支えているのか、一連の流れで楽しく理解できるようなブースを制作しました。

来場者からは、「ごみ処理施設が災害時の避難所になるなんて知らなかった。」「洪水からくらしを守る荏原の技術がもっと広まって欲しい。」「荏原は半導体にも関わっているのか。」といった声が聞かれ、当事業の理解を深めていただく機会につながりました。



質問に答える説明員



当社ブースの様子

エコプロ2019

会期 2019年12月5日～7日
会場 東京ビッグサイト 西・南ホール
主催 (一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社
公式URL <https://eco-pro.com/2019/>

投資家とのコミュニケーション

個人株主様向け現場見学会を実施しました

株主の皆様へ、当社の事業について一層のご理解をいただくため、六本木ヒルズエネルギーセンター及び船橋市北部清掃工場にて見学会を実施しました。

六本木ヒルズエネルギーセンター見学会(冷熱事業)

開催日 2019年11月21日
開催場所 六本木ヒルズエネルギーセンター
参加者数 約15名



施設概要を説明後、六本木ヒルズ地区の冷房用に使用される冷水を供給するための冷凍機や冷水を運ぶためのポンプ等を見学しました。

参加者のご感想

- ・御社の企業イメージ大変良く株式買増を考えています。
- ・普段立ち入れない場所での見学ができてよかったです。

船橋市北部清掃工場見学会(環境プラント事業)

開催日 2019年12月17日
開催場所 船橋市北部清掃工場
参加者数 約30名



(写真上) 施設内の機器の監視・操作を行っている“中央制御室”を見学しました。(写真下) カメラでとらえたピット内のごみ状況をAIで識別して、ごみクレーンの操作判断を行い、自動でゴミの攪拌や焼却炉への投入を行う場面を見学しました。

参加者のご感想

- ・合理的にごみを燃やしていること、電気を作って売っていることが印象に残った。
- ・説明がとてもわかりやすく、楽しく見学させて頂きました。
- ・荏原製作所の企業活動の一端を見ることができ、大変良かった。
- ・荏原といえばポンプというイメージから考えてこの様な設備を作り管理されているのに驚きました。



個人株主様向け 春の会社説明会のお申し込みは裏表紙へ!

個人投資家様向け会社説明会を実施しました

当社株式を投資対象としていただくため、事業概要や業績などについて説明を行い、その後、ご出席いただいた個人投資家の皆様からのご質問にお答えいたしました。今後も積極的に個人投資家様向け会社説明会を実施していく予定です。

開催日 2019年7月4日
開催場所 (株)日本投資環境研究所
開催日 2019年8月22日
開催場所 野村證券(株)さいたま支店
開催日 2019年9月11日
開催場所 SMBC日興証券(株)千葉支店
開催日 2019年11月26日
開催場所 野村證券(株)渋谷支店



当日の様子や配布資料は、当社WEBサイトでご覧いただけます。

●株主・投資家情報「個人投資家の皆さまへ」

<https://www.ebara.co.jp/about/ir/Shareholder/index.html>

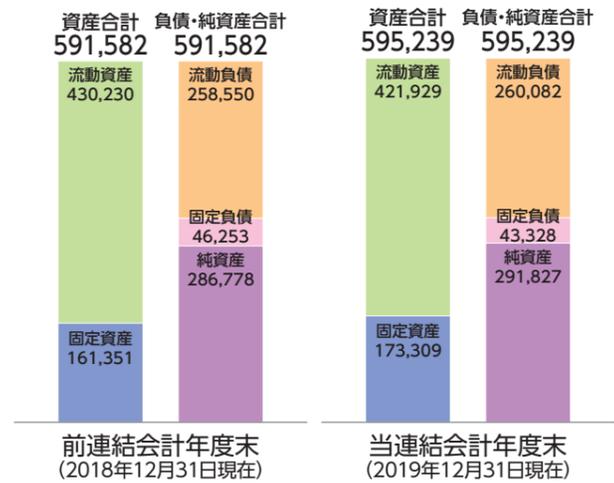


Financial Information

財務情報 (2019年12月31日現在)

連結貸借対照表の概要

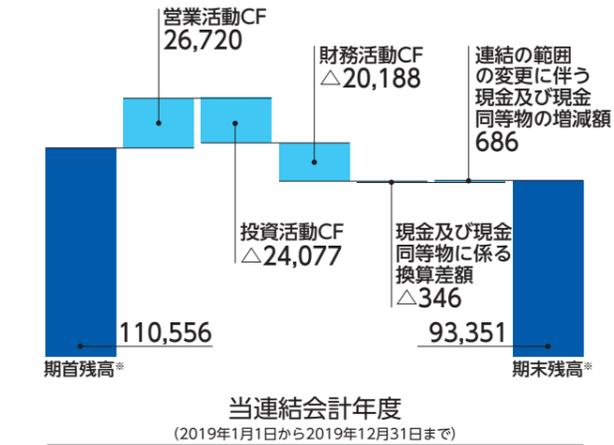
(単位:百万円)



※当該年度において「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」等を適用したことに伴い、2018年12月期については遡及適用後の数値を記載しています。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



※「期首残高」及び「期末残高」は現金及び現金同等物の残高

株主還元

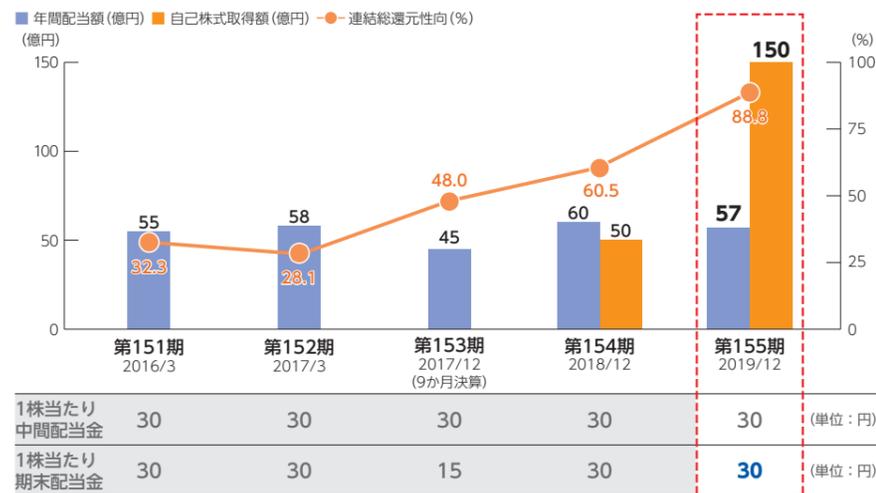
当社は、株主の皆様に対する利益還元を最も重要な経営方針の一つとして位置付けており、連結総還元性向30%以上を目標に当該期の業績に連動して実施する方針です。

当期の期末配当金については、1株当たり30円とさせていただきます。

※当社は、2016年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しました。右記のグラフでは、過去4年に遡って比較できるように第151期の期首に株式併合が行われたと仮定して表示しています。

※自己株式取得額は1億円未満を四捨五入して表示しています。

【ご参考】株主還元の推移



1株当たり 中間配当金	30	30	30	30	30	(単位:円)
1株当たり 期末配当金	30	30	15	30	30	(単位:円)

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 2018年1月1日から 2018年12月31日まで	当連結会計年度 2019年1月1日から 2019年12月31日まで
売上高	509,175	522,424
売上原価	376,021	385,736
売上総利益	133,154	136,688
販売費及び一般管理費	100,672	101,389
営業利益	32,482	35,298
営業外収益	2,629	2,794
営業外費用	3,830	2,521
経常利益	31,281	35,571
特別利益	1,205	1,087
特別損失	5,183	1,473
税金等調整前当期純利益	27,303	35,184
法人税、住民税及び事業税	7,148	7,268
法人税等調整額	468	2,777
当期純利益	19,685	25,139
非支配株主に帰属する 当期純利益	1,423	1,789
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,262	23,349

Corporate Information

企業情報 (2019年12月31日現在)

会社概要

商号 株式会社荏原製作所
 本社所在地 〒144-8510 東京都大田区羽田旭町11番1号
 電話 (03) 3743-6111 (ダイヤルイン代表)
 創業 1912年(大正元年)11月
 資本金 791億円
 従業員数 4,016名(連結17,080名)
 関係会社 子会社92社(うち連結子会社66社)
 関連会社4社

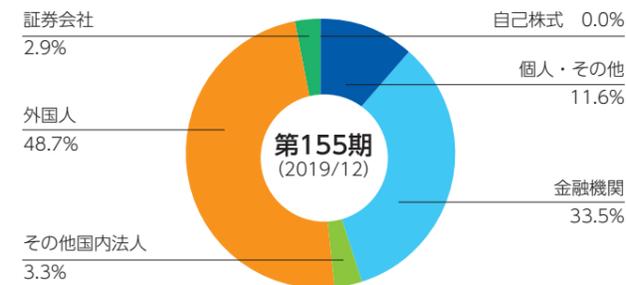
株式の状況

発行可能株式総数 200,000,000株
 発行済株式の総数 95,129,853株
 株主数 20,551名
 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,931	10.4
いちごトラスト・ピーティーイー・リミテッド	9,552	10.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,663	7.0
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	4,097	4.3
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	2,346	2.5
HSBC TRINKAUS AND BURKHARDT AG RE: DE-CLTS A/C RE AIF	1,882	2.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,677	1.8
JP MORGAN CHASE BANK 385151	1,521	1.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	1,496	1.6
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000	1,392	1.5

(注) 持株比率は、自己株式(5,784株)を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況



住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定、買取・買増請求、マイナンバーのお届出等の各種お手続きについて	未受領の配当金のご照会・受取について
<ul style="list-style-type: none"> ●証券会社の口座を開設されている株主様 お取引のある証券会社へお申し出ください。 ●特別口座に当社の株式が記録されている株主様 当社の特別口座管理機関である三井住友信託銀行へお問い合わせください。 	三井住友信託銀行へお問い合わせください。 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)
※特別口座に株式が記録されている株主様は、証券会社に口座を開設し口座振替のお手続きをご検討くださいますようお願いいたします。(特別口座とは、株券電子化に移行されるまでに株式会社証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主様の権利を保護するために当社が開設した口座です。)	

役員

取締役	執行役
取締役会長 前田 東一	代表執行役社長 浅見 正男
取締役 浅見 正男*	執行役 野路 伸治
社外取締役 宇田 左近	執行役 沖山 喜明
社外取締役 澤部 肇	執行役 山田 秀喜
社外取締役 山崎 彰三	執行役 喜田 明裕
社外取締役 大枝 宏之	執行役 マイケル・ローダイ
社外取締役 橋本 正博	執行役 大井 敦夫
社外取締役 西山 潤子	執行役 戸川 哲二
社外取締役 藤本 美枝	執行役 勝岡 誠司
取締役 藤本 哲司	執行役 永田 修
※は執行役兼務	執行役 中山 亨
	執行役 長峰 明彦
	執行役 小和瀬裕之
	執行役 曾布川 拓司

株式事務

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月に開催
基準日	12月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
配当金受領 株主確定日	12月31日 中間配当を実施するときの株主確定日は6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告 http://www.ebara.co.jp ただし電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行きます。
証券コード	6361
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部

個人株主様向け 秋の見学会は
9月発行のThe EBARAにて
ご案内いたします。お楽しみに!

春の会社説明会のご案内

株主総会にご出席いただけない個人株主様に、当社をより深くご理解いただくためのイベントを開催いたします。この機会に是非ご応募ください。



応募締切

4月20日(月)

※はがきの場合は当日消印有効

福岡開催

日時 2020年 6月16日(火)
10:00~12:00(予定)

会場 JR博多駅周辺会場

募集人数 30名

大阪開催

日時 2020年 6月11日(木)
10:00~12:00(予定)

会場 荏原製作所大阪支社
(JR大阪駅より徒歩10分)

募集人数 25名



応募方法

対象者

2019年12月31日現在、当社株式を
100株以上保有の個人株主様

参加費

無料(ただし、会場までの往復費用は各自の
負担とさせていただきます)

郵便はがき又は当社WEBサイトのいずれかにてご応募ください。

●はがき記入要領●



郵便はがき

郵便はがきに
右記の必要事
項を記入のう
え、ご応募く
ださい。

63円
切手

〒144-8510
東京都大田区羽田旭町11-1
株式会社荏原製作所
IR・広報課 SR担当
個人株主様向け
会社説明会係

- ①郵便番号
- ②ご住所
- ③お名前(ふりがな)
- ④年齢
- ⑤電話番号
- ⑥参加希望開催場所
(福岡又は大阪)

- ご応募多数の場合は抽選となります。厳正な抽選のうえ、当選発表はご当選者様への発送をもって代えさせていただきます。
- 複数枚でのご応募はご遠慮願います。
- 説明会中の録音及び録画はご遠慮ください。
- 荒天等、諸般の事情により内容が変更又は中止となる場合がございます。その場合はご当選された株主様にご連絡させていただきます。
- 当社が説明会で撮影した写真はホームページや株主様向け報告書、社内報等に掲載・使用させていただく場合がございますのでご了承ください。

個人情報の取扱いについて

今回ご応募いただきました株主様の個人情報は、本説明会の実施以外での目的では一切使用いたしません。



WEBサイト

[https://www.ebara.co.jp/
contact/ir_kengaku/index.html](https://www.ebara.co.jp/contact/ir_kengaku/index.html)

右記QRコードから
ご応募ください。



お問合せ先

株式会社荏原製作所 IR・広報課 SR担当

TEL: 03-3743-6111(ダイヤルイン代表)

9:00~17:00(土・日、祝日、その他会社の休業日を除く)



株式会社 荏原製作所

発行:ガバナンス推進部 IR・広報課
〒144-8510 東京都大田区羽田旭町11番1号
電話(03)3743-6111(ダイヤルイン代表)

